

## 佐賀県特別栽培農産物認証制度に対応した小ネギ病害虫の総合防除体系（例）

時 期	8～10月(夏季～秋季)				化学 合成 農薬 の有 効成 分 数
栽 培 作 業	播種前	生育期 ～ 収穫期			
基幹防除 (物理的防除)	近紫外線除去 フィルム	アザミウマ類、ハモグリバエ類のハウス内への侵入を防ぐために天井部分に被覆する。			
	目合い 0.6～0.8mm 防虫ネット	アザミウマ類、ハモグリバエ類およびチョウ目害虫のハウス内への侵入を抑制するために、サイドだけでなく、出入口等の開口部すべてに設置する。なお、気温が高い場合は下温対策として、天井部分に寒冷紗を被覆する。			
防除時期	初 期 防 除		臨 機 防 除		
薬 劑 防 除	圃場内を観察して、害虫の発生が認められ、被害が拡大するようであれば、防除を実施する		秋季はチョウ目害虫の発生が多くなるので、圃場内を観察し、幼虫・卵塊を捕殺するとともに、被害が拡大するようであれば、防除を実施する		
	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ シロイチモジヨトウの場合	ディアナSC 2,500倍	シロイチモジヨトウの場合	トルネードエースDF 1,000倍 または フェニックス顆粒水和剤 2,000倍	
	ネギアザミウマ ネギハモグリバエの場合	スタークル顆粒水溶剤 400倍 株元灌注 0.4L/m <sup>2</sup>	シロイチモジヨトウ ネギアザミウマの場合	プレオフロアブル 1,000倍 または スピノエース顆粒水和剤 2,500倍 (スピノエースのシロイチモジヨトウに対する登録 は5,000倍、ネギアザミウマは2,500～5,000倍)	
			シロイチモジヨトウ ネギハモグリバエの場合	プレバソンフロアブル5 2,000倍	
雑 草 病 害	スベリヒユ等	雑草は害虫の発生源となるので、こまめに除草する。			
病 害	根腐萎凋病・萎凋病 (土壌病害)	土壌消毒 (バスマド 微粒剤等)	生育期における茎葉部病害の発生は極めて少ない。		
化学合成農薬の 有効成分数	1	1	1	3	